令和６年度　　自己評価、学校関係者評価

学校法人亀井啓進会　府中白百合第二幼稚園

１．本園の教育目標

・年齢に応じた知的、身体的発達を十分に遂げるよう促進する。

・自主性を育て、明るく積極的な性格を培う。

・友達との関わり合いの中から、主張すること、譲ること、思いやる気持ちを育てる。

・読書力をつけ、本の大好きな子になるよう導く。

・人の話を集中して聴いたり、ある活動に没頭出来るような落ち着きと集中力を養う。

２．本年度重点的に取り組む目標・計画

・ひとり一人に寄り添い、見とりの力を付け、幼児理解を深める。

・職員間で幼稚園の保育理念を共有し、保育活動及び教育内容の充実を図り、少子化の中、多くの保護者に選んで頂ける園となるよう、基本を忘れずに、日々を大切に保育する。

・母の会活動のあり方を保護者の意見や希望と幼稚園の考え方を擦り合わせて、模索する。

・満３歳組を２クラス編成にし、更なる２歳児保育の充実をはかる。
２歳児保育の充実と預かり保育の日数・時間の拡大等、様々な方面から、子育て支援の充実を図る。

３．評価項目の達成及び取り組み状況

＜評価＞　A…十分に成果があった　B…成果があった　C…少し成果があった　D…成果がなかった

	評価項目	評価	取り組み状況
1	ひとり一人に寄り添い、見とりの力を付け、幼児理解を深める	A	◎様々な子どもへの対応や理解を深めるため、発達支援センターから毎年専門講師の派遣を依頼し、直接担任が子ども達と接する様子を見てもらい、アドバイスや助言を受ける事で担任としての関わり方の方向性が見え、子ども達のより良い成長に結びつけることが出来た。本年度より、保護者の希望があれば、様々な療育機関から幼稚園への訪問支援の受け入れも始めるなど、さらに門戸を開き、様々な子ども達の一人一人の発達に結びつけることが出来た。保護者の方にも幼稚園での様子が様々な方向から報告される機会が増え、保護者の心の安定にも繋がっていると考える。 ◎園全体で一人一人の子どもの成長・発達を見守り・育てる環境作りに留意しカリキュラム会議の際、意見を出し合う等、見とる力を付け、より深い幼児理解につながっている。
2	職員間で幼稚園の保育理念を共有し、保育活動及び教育内容の充実を図り、保護者の方に、選ばれる園になる様、努力する。	A	◎職員会議や行事後の反省会等で、幼稚園の保育理念を常に共有し、日々の研鑽と職員間の学び合いを大切にすることを心掛けた。 ◎外部講師による職員研修会を定期的に開催した。(年２回) ◎英語を保育に取り入れ２年目になるが、１年目に比べ数段に子ども達の英語に対する意識が高まっていることを感じる。英語の時間だけでなく、普段の保育の中でも英語のテープを流し、音楽に合わせて歌ったり、英語の絵本を見たり等の時間を持ち、異文化に興味や関心を持つ機会になる様、英語教育を保育の中に少しづつ入れるよう考慮した。

			◎保育日数、時間の見直し、保育日数や保育時間を増やす事で、日々の保育内容を充実させてきたが、それにより子ども達の活動がより豊かになった。又、幼稚園生活をゆったり、余裕を持って過ごすリズムが出来てきた。 ◎保育の充実に加え、共働き家庭への時間的及び経済的負担軽減を考慮し、出来るだけ午前保育日を減らし、１日保育へと移行させた。
3	母の会の活動のあり方を、保護者の意見や希望と幼稚園の考え方を擦り合わせて模索する。	B	◎誰もが負担なく役員を受ける事が出来、子どもと一緒に幼稚園生活を楽しむ事が出来る母の会設立を目指し、幼稚園と母の会で話し合いを進めてきた。母の会の運営も良い意味での簡略化により、更にスムーズになり、保護者の意識も高まりつつある。 ◎母の会総会をネット上で開催したり、PDF でメールを配信するなど、ペーパーレス化を図り、役員会の回数、仕事量を軽減する運営方法が定着してきた。 ◎母の会から給食試食会の開催やアンケートなどの打診が有り、保護者の代表である役員としての前向きな姿勢がある。本年度は、給食業者の変更やアンケートの採り方など幼稚園として熟慮が必要である為、来年度への課題とさせて頂いた。 ◎役員の方に、保護者の代表としてクリスマス会などの行事に参加して頂き、子どもと一緒に行事を楽しんで頂く機会を設けた。 ◎役員の方には、クラスのお母様方のまとめ役、連絡役をお任せし、子ども達が楽しい幼稚園生活を送る為の様々な企画・運営を保護者の立場から行って頂いた。
4	満３歳組を２クラス編成にし、更なる保育の充実を図る。 2歳児保育の充実と預かり保育の日数･時間の拡大等、様々な方面から、子育て支援の充実を図る。	A	◎令和５年度よりスタートさせた、満３歳組という４年保育を令和６年度は、２クラス編成とし、クラス間の交流、４人の担任で保育内容の骨組みなど話し合いながら満３歳組の保育の確立に近づける１年となった。 ◎入園前の２歳児の１年間、それぞれに有意義な時間となる様、月２回の未就園児親子教室「ぺんぎん」、月１回土曜日開催の未就園児親子体操教室「らっこ」を開室し、子育て相談や入園準備の質問に対応し、安心して園生活がスタート出来る様サポートした。 ◎「らっこ」開催日には、入園前の幅広いお子様対象に園庭開放を行い、遊びに来て頂く事によって、幼稚園が地域に開かれ、親しみの持てる場所になる様、心掛けた。 ◎令和５年より、共働き家庭であっても、幼稚園の教育を受けさせたいという家庭の支援の為、保育日数・保育時間の見直しを行い、預かり保育時間は、全日、７時半～１８時迄に延長し、長期休みも、土日・祝日・１２月２９日～１月３日の年末年始の休み以外は行っている。 ◎預かり保育に関しては、教務主任が預かり保育の全体を見る役目も兼務しており、事故やトラブルの多い時間帯だが、担任との連絡も密に行っており、担当する職員に子ども達の性格や様子が把握されている為、事故やトラブルはほとんど無い。 ◎預かり職員も正職のベテランが担当することが多く、共働き家庭の方だけでなく、預かりを希望する子ども達も多く、利用人数も年々増えている。

４．総合的な評価結果

評価	理　由
A	令和５年度から始めた様々な新しい取り組みをじっくり見極めながら、運営を軌道に乗せていく年となった。 少子化も進んで行く時代の中で、保護者のニーズに寄り添いながらも、中心は常に”子ども”に置きながら、基本的な事を見失わずに、職員間で時間をかけて話し合いを重ね、改善点を修正したり努力した１年であった。 保育内に導入した英語レッスンも２年目で子ども達の生活のリズムの中に溶け込み始めた。月１回の英語レッスンの日を楽しみに待つ様子が見られ、外国人講師にも、覚えた英語で話しかけたり、講師と会話を交わす子どもも増えてきており、英語が身近に感じられる。 満３歳組は２クラス編成となり、クラス間の交流や２クラスの担任間での話し合いが活発に行われている。身体を動かす活動、手先をつかう活動を中心に保育内容を組み立てていくという満３歳組保育の方向性を確立させつつある。保護者のニーズにも応えつつ、保育園の２歳児クラスとは異なる幼稚園の４年保育クラスとしての満３歳組を定着させていきたい。 幼稚園での活動の様子をタイムリーに紹介したり、未就園の保護者の方に、幼稚園選びの参考になる情報を広く開示する為に、インスタグラムを開設した。今後、在園の保護者の方にも楽しみに見て頂いたり、未就園の保護者の皆様に幼稚園を紹介し、本園を選んで頂ける手立てとなるようなインスタグラムにしていきたい。 選ばれる園になるべく、まだまだ努力の余地はあるが、職員みんなで知恵を出し合い、今後も努力していくという共通意識を持つことが出来た。

５．今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教員間でインクルーシブ教育に理解を深めると共に、保育活動･教育内容の充実を図る。	多様な子ども達の存在を前提に、一人ひとりに寄り添い、配慮を行いながら『共に育つ』という観点からクラス運営を行う取り組み方を職員間で模索し、理解を深める。 教育内容の質の高さを保つため、日々の研鑽と職員間の学び合いを大切にする。 年に２回、職員が学びたいテーマで外部の講師を招き、職員研修を行う。 子ども達が楽しく取り組む事で幼児期に必要な子ども達の心や身体の発達に繋がるような活動を保育の中に多く取り入れる。
2	満 3 歳組を含む 2 歳児保育の充実	満３歳組を幼稚園の４年保育としての位置付けがしっかり出来るよう、保育内容や行事への参加の仕方等検討を重ね、より良い満３歳組を確立していく。 未就園児親子教室「ぺんぎん」、未就園児親子体操教室「らっこ」も保育内容を高め、各家庭の状況に合った３歳児入園に向けた一年が過ごせるように支援する。 無料の英語遊びの教室、園庭開放の開催やイベント等、地域の方やお子様のいるご家庭に幅広くお知らせし、楽しく親子で参加して頂く事で幼稚園に対し、より理解を深めて頂く。
3	預かり保育の内容を充実	共働き世帯を含む様々な家庭のニーズに応えられるよう、預かり保育の内容や仕組みを更に充実させる。 夏休み預かり時の暑さ対策、預かり中の病気や怪我の対応など、様々なケースについて確認し、子ども達を安全に預かることが出来るような設備や体制作りを更に強化して行う。
4	英語教育の充実	３年目になる保育内の英語レッスンを英語講師と相談し、子ども達の取り組み方の様子を見ながら、内容を充実させていく。 保育内で体験した英語を普段の保育の中にも生かす遊びや活動を模索し、月１回の英語レッスンを生かせる工夫をする。
5	幼稚園業務の IT 化を進める	幼稚園業務の効率化、保護者の利便性を図るため、出来るところから IT 化を進めていく。 幅広くホームページを活用して頂ける様、ホームページの見直しも考えて行きたい。 インスタグラムの効果的な運用を考えていく。

６．学校関係者評価

（１）幼児理解を深める

・様々な性格や特徴を持つ子ども達にひとり一人と丁寧に向き合うことが幼児理解を深めることにつながっていると感じた。

・開かれた環境の中で、様々な人と触れあう機会があるのは、どの子ども達にとっても良いことだと思う。

・子育ての中ではどの保護者も何かしらの不安はあると思うので、保護者も安心し、安定してこどもと向き合うことが出来るような体制を幼稚園が提案していくことは、子供の発達・成長につながると思う。

（２）保育活動及び教育内容の充実を図り、保護者の方に選ばれる幼稚園になるよう努力する。

・小学校でも必修となっている英語が保育に取り入れられたことは大変良い事だと思う。将来的には、月１回の活動から回数を増やしたり、日常的に触れ合う時間を少しでも作れると更に有効な成果が得られると思う。

・保育日数、保育時間の見直しにより保育日数や保育時間が増えたことは、保育内容が充実されると共に、仕事を持つ母親にとっても、家庭と仕事の両立がしやすい環境となり大変良かった。

・長期休暇の預かり保育料がもう少し安いと家庭の負担も減り、利用しやすくなる。保護者の幼稚園選びに良い印象を与える。

・共働き家庭は平日にお稽古をさせることが難しいことが多く、保育時間後に様々な課外活動が設けられていることは大変ありがたく、利用者も大変多いと感じる。

・昨今の幼稚園のデジタル化に追従すべく、キャッシュレス化することで幼稚園で保管する現金が減り防犯面で良い。銀行への入金や現金確認作業が減り、職員の負担も減る。保護者の幼稚園選びにも、好印象を与える。

・日本語が得意ではないお子様の入園も増えているので、異文化交流の観点からも英語でのレクリエーション等あるとより良いと思う。

（３）母の会活動のあり方を保護者と共に模索する。

・効率化を図った母の会の運営方法を継続しながら、更に母の会役員の中で話し合いを進め、幼稚園と相談したり、了解を得たりしながら、より良い方法へと進めることが出来た。

・誰もが負担なく参加できる活動へ大幅シフトできたと思う。しかしながら、役員は大変というイメージが先行し、参加に消極的な保護者が多いことが課題である。

（４）満３歳組の２クラス開設と預かり保育の充実等様々な方面から、子育て支援の充実を図る。

・無償化の対象となる満３歳組（４年保育）はこれからも入園希望が増えてくると思うので、２クラスに増設されたのは保護者にとっても喜ばしい事だと思う。

・預かり保育の日数や時間の拡大により、共働き家庭であっても、保育園だけでなく幼稚園に通うという選択肢が増えた事は大変良かった。

・預り時間の延長、預り実施日増加に伴い、保育内容も工夫され、預かりを利用する回数の多い子どもも楽しむ事が出来た。特預かり保育での季節の制作活動はクオリティも高く好評であった。

（5）その他

・お迎えの際や個人懇談の際、先生から保護者へ園生活の様子など共有してもらえるため、安心できるし、信頼して預ける事が出来る。

・無料の未就園児対象の英語遊びが月1回開催されている。地域の方や幼稚園に興味のある方に紹介し、多数の親子に参加して頂き、幼稚園を知る機会になれば良いと思う。

・満3歳組が増えたこともあり、よりセキュリティ強化が求められると思うので、出入り口のセキュリティ強化や園児引き取りの手順、バスアプリの導入など新たな取り組みがあると保護者の安心度が増し更に良くなると思う。

・提携駐車場の割引システムなどがあると、遠方からの入園希望者や課外教室利用者ももっと増えると思う。

・幼稚園の欠席連絡等、アプリやLINE等のツールを使用することが出来れば、朝の忙しい時間帯や幼稚園の電話が繋がりにくいといった事象も減り、親や職員の負担軽減に繋がるのではないかと思う。

・今後の課題として、お手紙や日々の活動の様子の配信にホームページ等を活用したり、園との連絡手段に連絡アプリを導入したりデジタル化を進めていただきたい。